

和歌山県におけるクビアカツヤカミキリの被害状況とウメの防除対策

和歌山県果樹試験場うめ研究所 研究員 裏垣 翔野

【はじめに】

近年、我が国において特定外来生物のクビアカツヤカミキリ（写真1）の被害が深刻な問題となっています。本種は幼虫が樹幹内部を食害することでサクラ、ウメ、スモモ、モモといったバラ科の樹木に大きな被害を与えます。被害が激しい場合は枯死に至ります。また、繁殖能力が高く、被害が急速に拡大する傾向があります。和歌山県内では2019年以降、紀北地域で被害が拡大していましたが、2023年には日高郡で、2024年には有田郡でも被害が確認され、ウメ産地への被害の拡大が懸念されています。



写真1 クビアカツヤカミキリ成虫

【生態について】

クビアカツヤカミキリの成虫は体長が2~4cm程度で、体色は全体的に艶のある黒色で胸部（頭部の下）が赤色であることが特徴です。飼育下におけるメス成虫1匹あたりの平均産卵数は350個で、最大1,000個以上産卵した個体も確認されており、非常に繁殖能力が高いと言えます。成虫は5月の下旬から8月までの期間に発生し、その間にオスとメスが交尾を行います。交尾後のメスは樹皮の割れ目などに産卵し、ふ化した幼虫が外樹皮の下の内樹皮を食害します。幼虫から成虫になるまでの期間は1年から3年まで幅がありますが、国内では多くの個体が2年で成虫になります。羽化する年の春以降に1か月程度の蛹の期間を経て、成虫へと羽化します。

【和歌山県内の被害状況について】

和歌山県では2019年にかつらぎ町で初めて被害が確認されました。紀北地域では2024年3月末時点で4市2町に被害が拡大し、農地における累計の被害本数は3,451本となっています。紀中地域では2023年5月に御坊市、7月に日高川町、9月には由良町と被害が拡大し、2024年3月末時点の農地における被害本数は102本となっています。さらに2024年6月には湯浅町および有田川町でも被害樹が初めて確認されました。今後、紀南地域でも被害の発生が懸念されます。

【早期発見のポイントと発見後の対応】

被害の拡大防止には被害樹の早期発見が重要となります。クビアカツヤカミキリの幼虫が食入している樹からは、木くずと虫糞の混合物であるフラス（写真2）が排出されるのでフラスの有無によって被害樹であるかどうかを判断することができます。フラスは主に主幹や主枝から排出されますが、直径5 cm程度の枝からも排出される事例が認められているので注意が必要です。疑わしいフラスを農地で見つけた場合には必ず最寄りの振興局農業水産振興課、農作物病虫害防除所またはJAまで連絡してください。本種による食害であると確定した場合は、発生初期の地域では被害が拡大しないように成虫の飛散防止のためのネット被覆および伐採の対策をお願いしています。



写真2 ウメの樹から排出されたフラス

【効果的な農薬について】

成虫が多く飛来する6月中旬以降に効果の高い農薬を散布することができれば有効であるため、うめ研究所では、成虫に対して殺虫効果が高い農薬を探索しました。方法としては、薬剤散布後（当日、3日後）のウメの枝（直径5 cm程度、長さ30 cm程度）を入れた容器内に成虫を15匹放虫し、その4日後に死虫率を調査しました。試験を行った薬剤はモスピラン顆粒水溶剤（2,000倍）、アクタラ顆粒水溶剤（2,000倍）、テッパン液剤（2,000倍）、オリオン水和剤40（1,000倍）です。結果としては、モスピラン顆粒水溶剤で高い殺虫効果が認められました。

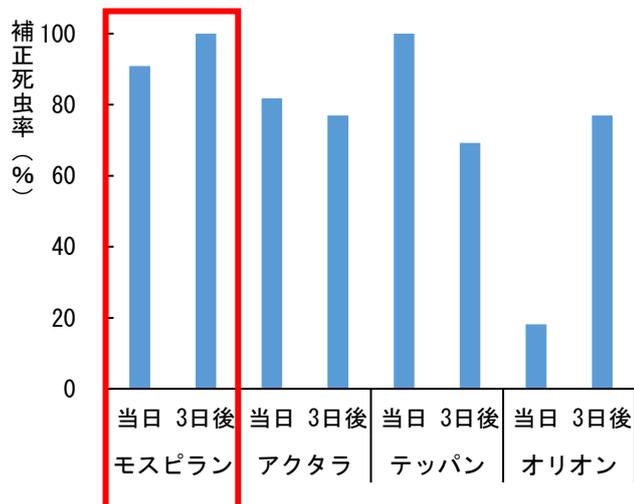


図1 放虫4日後の成虫の補正死虫率

$$\text{補正死虫率 (\%)} = \frac{(\text{処理区死虫率} - \text{無処理区死虫率})}{(100 - \text{無処理区死虫率})} \times 100$$

【防除対策について】

成虫が多発する6月中旬以降に農薬を散布することが重要です。10～14日間隔で2回以上散布することが効果的です。しかしながら、現時点では農薬散布のみでは被害を抑えきれない状況です。

したがって、幼虫の掘り取り、刺殺、フラスの出ている穴へのスプレー剤の噴射などと組み合わせ、防除を行うことが重要です。被害が著しい場合には、成虫の発生期間はネット被覆によって成虫の飛散を防止し、秋以降に被害樹を伐採するというこも、被害を拡大させない上で有効な防除対策です。

表1 有効な防除対策

	対策	対象		内容
		幼虫	成虫	
農薬使用	食入孔に噴射	○	—	フラスの出ている穴に薬剤を噴射
	散布	△	○	木に薬剤散布
農薬以外	ネット巻き	×	○	ネット被覆による成虫の脱出防止
	掘り取り・捕殺	○	○	定期的な見回りによる直接駆除
	被害樹の伐採・抜根	◎	—	被害樹を伐倒し粉碎または焼却

◎：効果が高い ○：効果がある △：効果が低い ×：効果がない —：対象外

【おわりに】

県内におけるクビアカツヤカミキリの被害地域は年々拡大しています。ウメ産地で被害を拡大させないためには被害樹の早期発見、早期防除が重要になります。収穫や剪定の時期には念入りにフラスが排出されている樹がないかを確認しましょう。疑わしいフラスを農地で発見した場合には、最寄りの振興局農業水産振興課、農作物病虫害防除所またはJAにご連絡をお願いします。

